

## II 各教科

### 1 国語

#### (1) 第1学年

##### ① 分析と生徒の状況

###### ア 分析

- ・教科に関しての興味・関心に関するアンケート結果は、「そう思う」「どちらかというと思う」という肯定的な考えをもつ生徒は83.6%と例年の生徒よりも低いと感じる。
- ・授業の進め方や板書、資料などについては肯定的な考えを96%以上の生徒がもっていることが分かった。

###### イ 学力の状況

###### ・「知識・技能」について

小学校で学ぶべき漢字について、5割程度の生徒が常用的に使用することができていない、もしくは誤用する、ひらがなで表記する。言葉を調べる習慣がある生徒とない生徒の差がある。語彙が少ないせいで文章を読むことに苦手意識がある。

###### ・「思考・判断・表現」について

表現や判断に関しては、抵抗なくできる生徒が多い。反面、すぐに答えが出ないような解釈や精読に対して苦手意識がある。

###### ・「主体的に学習に取り組む態度」について。

授業への取り組みはおおむね満足できる状況にある。反面、自分の課題を理解しても、改善する粘り強さや方法が分からないと考えられる。

##### ② 本校の課題

###### ア 学習面（生徒の課題）

- ・話す速度や音量、相手や場に応じた言葉遣い等についての知識を生かして話す力や、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる力を身に付ける。また、話し合いを通して考えを深め、よりよい結論が出るような良質な質問をする力や、課題意識をもつこと、話の展開などを整理する力を磨く必要がある。
- ・目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりする力や、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読み、内容の理解に役立てる力を身に付ける。
- ・言葉と言葉のつながりや、文章の構成に関する知識をもち、メタ的に読む練習が必要。
- ・書いた文章を読み返し、表記や文法等を確かめ、読みやすく分かりやすい文章にする力を身に付ける。
- ・学習や日常生活に必要な漢字の読み書きの力を身に付ける。また、既習の事柄を生かす意識を育て、生活につなげていくことが必要。

###### イ 指導面（教師の課題）

- ・単元または授業の目標や、単元を通して身に付けたい力を具体化・明確化し、生徒に常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。
- ・ねらいに沿った主体的な言語活動を積極的に取り入れ、学んだことを活用する場を設ける。
- ・ワークシートだけでなく、ノートをとることで主体的な学びのプランを自分で構築する習慣を身に付けさせる工夫をしていく。また、細かい評価をすることで学びのエンゲージメントにつなげる。

##### ③ 授業改善案

###### ア 言語活動の取組

- ・生徒の身近なテーマなどを設定し、目的意識をもって取り組ませる。
- ・「読むこと」について、物語・小説では場面展開や情景描写に注意して読み、生徒同士で意見を交流させながら、場面の展開や登場人物等の描写などから根拠を探させる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ワークシートとノートへの書き取りのバランスに注意する。また、ワークシートやテストの際はUDデザインのフォントを使用するように留意する。
- ・単元の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しと目的意識をもって授業に取り組むことができるようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・小漢字テストを毎週行うことで、漢字の学習を習慣できるようにする。
- ・ノートの下記スペースに、調べ学習をするように促して興味関心に応じて学べるようにする。
- ・ワークを利用して、単元の予習復習の定着を図る。

エ 授業の受け方

- ・ノートへの書き取り方を指導し、主体的に取り組めるようにする。また、個別に発展的な学習ができるように、課題を設定する。
- ・単元が終わった後には必ず、まとめの課題を提示し、学習のまとめを意識させる。

## (2) 第2学年

### ① 分析と生徒の状況

#### ア 分析

- ・授業評価アンケートの回答では、授業内容に関する質問項目五つに対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答をした生徒が平均99%以上であったため、生徒にとっておおむね納得できる授業になっていると考えている。しかし、教科に対する興味・関心への肯定的な回答が89%であったことから、興味・関心を上昇させることが課題である。

#### イ 学力の状況

- ・「主体的に学習に取り組む態度」について。  
授業への取り組みはおおむね満足できる状況にある。  
少し難易度の高い課題に対しても粘り強く取り組もうとする姿が見られる。
- ・「知識・技能」について。  
授業で習得した知識・技能を定期考査前に復習し、定着を図っている。長期休みの課題を中心に、小学校で学ぶべき漢字について日常的に使えるようにするための課題を出しているが、まだ語彙が少なく、文章を読むことに苦手意識がある。
- ・「思考・判断・表現」について。  
表現や判断に関しては、抵抗なくできる生徒が多い。反面、すぐに答えが出ないような解釈や精読に対して苦手意識がある。

### ② 本校の課題

#### ア 学習面（生徒の課題）

- ・話す速度や音量、相手や場に応じた言葉遣い等についての知識を生かして話す力や、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる力を身に付ける。また、話し合いを通して考えを深め、よりよい結論が出るような良質な質問をする力や、課題意識をもつこと、話の展開などを整理する力を磨く必要がある。
- ・文法や漢字など、習得した知識・技能を日常生活に生かす。
- ・他の生徒と考えを共有したり話し合ったりすることを通して、相互に考えを広げたり深めたりする。
- ・目的意識をもって日々の学習に取り組む、振り返りで成果と課題を明らかにし、次の学習につなげていくサイクルをつくる。

#### イ 指導面（教師の課題）

- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身に付けたい力を具体化・明確化し、生徒に常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。
- ・話し合い活動やスピーチ等、ねらいに沿った主体的な言語活動を増やす。
- ・生徒が授業だけでなく日々の生活に生かすイメージがもてるように授業展開を工夫する。

### ③ 授業改善案

#### ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、むやみに話したり書かせたりするのではなく、

- 上手に話したり書いたりするためのスキルをきちんと教えた上で、取り組ませるようにする。
- ・「書くこと」について、学習者用端末を活用して自分の考えをまとめたり発表したりする活動を増やす。
  - ・「読むこと」について、物語・小説では場面展開や情景描写に注意して読み、生徒同士で意見を交流させながら、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読ませる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 1 単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。
- ・ 単元の振り返りのワークシートを統一する。
- ・ ワークシートは UD デザインのフォントを使用するように留意する。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 必要に応じてスタディサプリの該当ページを紹介し、補習学習を促す。
- ・ 小漢字テストを毎週行うことで、漢字の学習を習慣できるようにする。

エ 授業の受け方

- ・ 学習者用端末を活用して、生徒同士が学び合う機会を増やし、考えを深めさせる。
- ・ 単元が終わった後には必ず、まとめの課題を提示し、学習のまとめを意識させる。

### (3) 第3学年

#### ① 分析と生徒の状況

##### ア 分析

- ・授業評価アンケートの回答では、授業内容に関する質問項目五つに対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答した生徒が平均93%以上であったため、生徒にとっておおむね納得できる授業になっていると考えている。また、教科に対する興味・関心への肯定的な回答が74.8%であり、昨年度の同集団と比較すると10%ほど増加している。

##### イ 学力の状況

###### 全国学力・学習状況調査から

- ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」の2領域で全国平均を上回っている。
- ・「知識・技能」では、全国平均よりも3ポイント以上高い。
- ・「思考・判断・表現」では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれも全国平均よりも6ポイント以上高く、都平均よりも4ポイント以上高い。
- ・いずれの設問も無回答率が全国平均、都平均よりも低く、粘り強く取り組む姿勢も見られる。
- ・全体的におおむね満足できる状況である。

#### ② 本校の課題

##### ア 学習面（生徒の課題）

- ・既習事項を他の学習に生かすことができないか試行錯誤する。
- ・文法や漢字など、習得した知識・技能を日常生活に生かす。
- ・他の生徒と考えを共有したり話し合ったりすることを通して、相互に考えを広げたり深めたりする。
- ・目的意識をもって日々の学習に取り組み、振り返りで成果と課題を明らかにし、次の学習につなげていくサイクルをつくる。

##### イ 指導面（教師の課題）

- ・「知識・技能」を習得させるための分かりやすい説明と、「思考・判断・表現」力を発揮する適切な場の設定をする。
- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身に付けたい力を具体化・明確化し、生徒に常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。
- ・話し合い活動やスピーチ等、ねらいに沿った主体的な言語活動を増やす。
- ・生徒が授業だけでなく日々の生活に生かすイメージがもてるように授業展開を工夫する。

#### ③ 授業改善案

##### ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、むやみに話したり書かせたりするのではなく、上手に話したり書いたりするためのスキルをきちんと教えた上で、取り組ませるようにする。
- ・「書くこと」について、学習者用端末を活用して自分の考えをまとめたり発表したりする活動を増やす。
- ・「読むこと」について、文学的文章でも説明的文章でも、学習者の体験を想起させることで、今までの経験を踏まえて自分の考えをまとめさせる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 1 単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。
- ・ 単元の振り返りのワークシートを統一する。
- ・ 授業のポイントをいつでも見直せるように学習者用端末で共有ページを作成する。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 必要に応じてスタディサプリの該当ページを紹介し、補習学習を促す。

エ 授業の受け方

- ・ 毎時間必ず日付、めあて、振り返りをノートに記述させる。単元の学習の終わりには単元の振り返りワークシートを記述させる。
- ・ 学習者用端末を活用して、生徒同士が学び合う機会を増やし、考えを深めさせる。